

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|----------------------------|
| 施設所在地 | 東京都江東区大島6丁目1-7 6丁目団地7号棟108 |
| 施設名 | NPO法人 KOTOともそだちネット ひよっこ保育室 |

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・自然

〈テーマの設定理由〉

・団地内の自然物を集める中で、集めたものは何の実なのか疑問を抱き興味を持つ姿があったから。

2 活動スケジュール

10月 初旬 団地内の広場や公園へ行き、自然物を見たり触ったりして身近に感じる。
10月 中旬 団地内の探索から徐々に団地外に足を伸ばし色々な公園や広場を訪れる。
団地内にはなかった木の実や果実、大きな葉など興味を持って集め、保育室まで持ち帰る。
11月 初旬～ 図鑑を購入し何の実かを子ども同士や保育者を交えて調べる。
持って帰ってきた自然物の中に恐竜の卵の化石に似ている物を発見する。
11月～12月に掛けて、様々な公園や広場で恐竜の化石探しを楽しむ。
12月下旬 自身のイメージした恐竜を恐竜の卵や糞の化石に似た自然物や落葉、木の実を使って自由に表現し、制作する。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・図鑑（2冊） ・デジタルカメラ ・スマートフォン ・タブレット ・環境設定用の棚

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

10月 気候が落ち着いてきたことで団地内の芝生のお山や近隣の広場に散歩へ毎日出かけるようになる。探索の末見つけた自然物を持ち帰り、調べることになった。
11月 図鑑を元に何の木の実なのか見比べてみたり考える姿が増えた。中でも恐竜の図鑑を元に拾ってきた自然物が恐竜の糞や卵の化石に似ていることに気付き、恐竜の化石探しが始まった。
12月 恐竜の卵の化石に似たものをいくつか発見した。大事に保育室を持ち帰り、友だち同士で見せ合う姿があった。また、図鑑に基づいて何の実なのかを話し合う姿も見られた。ある日散歩で訪れた公園に鶏卵が落ちていた。それを見て本物の恐竜の卵もあるのでは？と子供たちの興味はますます高まっていった。大切にしていた卵の化石や糞の化石を使って、自身の恐竜のイメージをもって制作として作品を残すことにした。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・自然物を手に「これは何の実？」と保育者に質問する。保育者も確信が持てなかった為、「何だろう」と同じように共感し周囲の児へも「何だと思う？」と投げかけた。「図鑑で調べたい。おうちにあるよ」の声から図鑑を購入し、調べることとなった。
- ・”恐竜”と”自然”の図鑑を元に何の実かをそれぞれが見比べながら調べた。M君が「これ恐竜のうちじゃない？」と保育者に尋ねる。周囲の児も一緒になって「本当だ！」と盛り上がっていた。
- ・興味を持った児、発見した児を中心に”恐竜の何か”探しが始まった。保育者に「これはどうかな？」と自然物を見せに来る姿や友達同士で「発見だー！」と拾得したものを持って喜ぶ姿が印象的だった。
- ・この活動は10月から12月まで続き、公園や広場を訪れるたびに”恐竜の何か”を継続的に探し出そうと探索活動を楽しむ姿が見られていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・子どもたちのふとした会話の中で「これはなんだろう」〈疑問〉
「○○じゃない？」〈一人一人の考察〉などのやり取りが見られ、子どもの気付きや発想力に驚いた。又、少人数での話し合いや観察、調べたことにより、一人ひとりの声を丁寧に拾うことが出来たと思う。
室内にすぐ手に取れるように図鑑を2冊常設し、戸外で気になった木の実や自然物を図鑑で友だちや保育者と一緒に調べることが習慣化した。すくわくの期間を終えてもなお”子どもたちの探求したい”という気持ちが育ったように思う。又、保育者が子どものワクワクを無理に引き出さずとも環境が整っていれば子どものワクワクはおのずと出てくる物なのだと感じた。